第２回　南箕輪村むらづくり委員会　会議次第

令和８年９月８日（火）
午後７時から　役場講堂

１．　開　会

２．　会長あいさつ

３．　協議事項

（１）令和７年度地方創生関連事業の検証について　　会議資料１

（２）その他

４．　その他

次回の日程について
日時：10 月６日（火）　午後７時～　講堂

５．　閉　会

１．令和７年度地方創生関連事業の検証について

会議資料　１

南箕輪村創生総合戦略

基本目標

（１）立地特性を生かした職住近接のむらづくり
（２）若者定住と郷土愛の醸成によるかえって来たいむらづくり
（３）安心して子どもを産み育てることのできるむらづくり
（４）誰もが安心して暮らし続けられるむらづくり

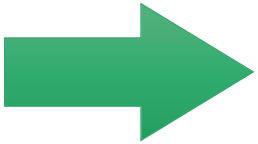
地方創生関連事業は、村の創生総合戦略に基づいて実施しています。

令和７年度は、新たに「グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト事業～緑豊かで安全な憩いの場を創出する取り組み」事業を行いました。

事業実施にあたっては、実施計画を作成し、KPI（重要業績評価指標）を定めています。
この資料の最終ページで、令和７年度のKPIの達成状況を示し、事業実施後の村の考え方を示しています。

委員の皆様には

・利用者目線から
・それぞれのお立場から
・創生総合戦略に基づく観点から



・KPIによる効果検証
・それを踏まえた事業の見直し

についてご意見を頂きます

地域未来推進型の概要

- 地方の大きな伸び代と地域特性を最大限に活かし、地方の暮らしの安定を実現するとともに「強い経済」を構築するため、地場産業の付加価値向上など、地方公共団体の地域独自の取組を幅広く支援する。
- 従来の地方創生に資する取組のみならず、各自治体による産業クラスター計画や地場産業の成長戦略が、真に地方の活力を最大化することに繋がるような取組を推進する。

- 地方の暮らしの安定を実現し、各自治体による産業クラスター計画や地場産業の成長戦略が、真に地方の活力を最大化することに繋がるような、地方公共団体の地域独自の取組等を支援。
- ソフト＋ハードや分野間連携の事業を一体的に支援
- 事業の検討・実施・検証の各段階において、地域の多様な主体が参画

	ソフト事業	拠点整備事業	インフラ整備事業
事業計画期間	原則３か年度以内（最長５か年度）	原則３か年度以内（最長５か年度）	原則５か年度以内（最長７か年度）
補助率	1/2	1/2	1/3等（各省庁の要綱に従う）

計画の目的（地方創生として目指す将来像）

大芝高原への観光人口の増加＆関係人口の獲得、ブランド向上
広域の防災拠点としての機能の維持

【課題】	【具体策】
■ 大芝の湯利用者数の落ち込み	■ 大芝の湯の機能面の拡充
■ アスレチックや遊具の老朽化	■ アスレチックや遊具の更新
■ 森林セラピーロードの整備維持財源の確保 ■ 多くの施設があるが、複合的なツアー企画ができていない	■ 森林セラピーロードを活かしたユニバーサルツーリズム等の企画
■ 高原内のトイレが洋式化・バリアフリー化していない	■ 車いすや足の不自由な人でも利用できるようにするためのトイレ改修
■ 平地林の主要樹種アカマツの松枯れ進行	■ アカマツ食用炭を使った新メニューの開発 ■ 松枯れアカマツを利用した木質バイオマスボイラーの導入
■ 来訪者の内訳が県内からに偏っている ■ マーケティングを含めた地域外へのPRが不十分	■ 県内外問わず幅広く発信していくプロモーションの実施
■ 周辺の水道管路が耐震化していない	■ 周辺エリア含めた水道管路の耐震化

南箕輪村の交付金の活用状況

交付金種類	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
地域未来交付金（旧第２世代交付金）	グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト事業～緑豊かで安全な憩いの場を創出する取り組み～				
	ソフト事業 <ユニバーサルフィールド化に関する事業> <地域資源を生かした新たな観光資源に関する事業>				
		拠点整備事業 <大芝の湯リニューアル整備事業>			
		インフラ整備事業 <水道管路耐震化事業> <公園トイレ改修・アスレチック更新事業>			

今回検証範囲

ＫＰＩ検証
（前年度の実績を翌年９月ごろまでに検証）

グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト事業～緑豊かで安全な憩いの場を創出する取り組み～

申請者	長野県南箕輪村						初回採択回	令和７年度第１回募集
事業計画期間	R7-11年度						期間中の総事業費 （カッコ内はR7年度事業実績）	1,428,804千円 （111,401千円）
経費の類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	✓	事業分野	観光分野
目的（効果）	・公園内のユニバーサルフィールド化、インフラ改修、ふれあい交流センターの施設整備を一体的に行うことにより、大芝高原のブランドを向上し、利用者、観光消費額を増やすことで、今後、大芝高原が持続可能で上伊那地域を代表する観光拠点として発展していくことを目指す。 また、広域の防災拠点として、施設の機能が最大限活用できるよう周辺エリアの避難所も含めた水道管路の耐震化を行うことで、有事の際に、防災・減災に対応できる拠点としての機能を維持できるようにしていく。								
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費の実績額	【ソフト事業経費】 〇ユニバーサルフィールド化に関する事業 ・コンシェルジュ窓口、マップ作製に係る経費（委託料）：5,000千円 ・備品の購入に係る経費（備品購入費）：2,009千円 〇地域資源を生かした新たな観光資源に関する事業 ・新商品開発費（委託料）：2,000千円 ・ＰＲ動画制作およびSNS運用費（委託料）：5,200千円 【インフラ整備事業経費】 〇ユニバーサルツーリズムに必要な公園内トイレ改修及び老朽化したアスレチック・遊具の更新 ・事業費　14,016千円 〇広域防災拠点の機能維持に必要な水道管路の耐震化 ・事業費　83,176千円						 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①大芝高原の観光消費額　（＋1.03億円） ②大芝高原の利用者数（＋205千人） ③管路耐震化率（＋12.8%） ④「ふるさと名物」商品化件数（＋８件）							

ソフト事業

Ｒ７事業の概要及び実施内容

【地域資源を生かした新たな観光資源に関する事業】

・新たなアカマツ炭利用商品の開発

・「ブラメシフェス」の実施

【ユニバーサルフィールド化に関する事業】

・貸出可能な車いすの購入及び体験会の実施

・ユニバーサルツーリズムマップ作製のための調査等の実施

・ユニバーサルツーリズムに関する講習会の実施













ソフト事業（令和7年度実施分）②









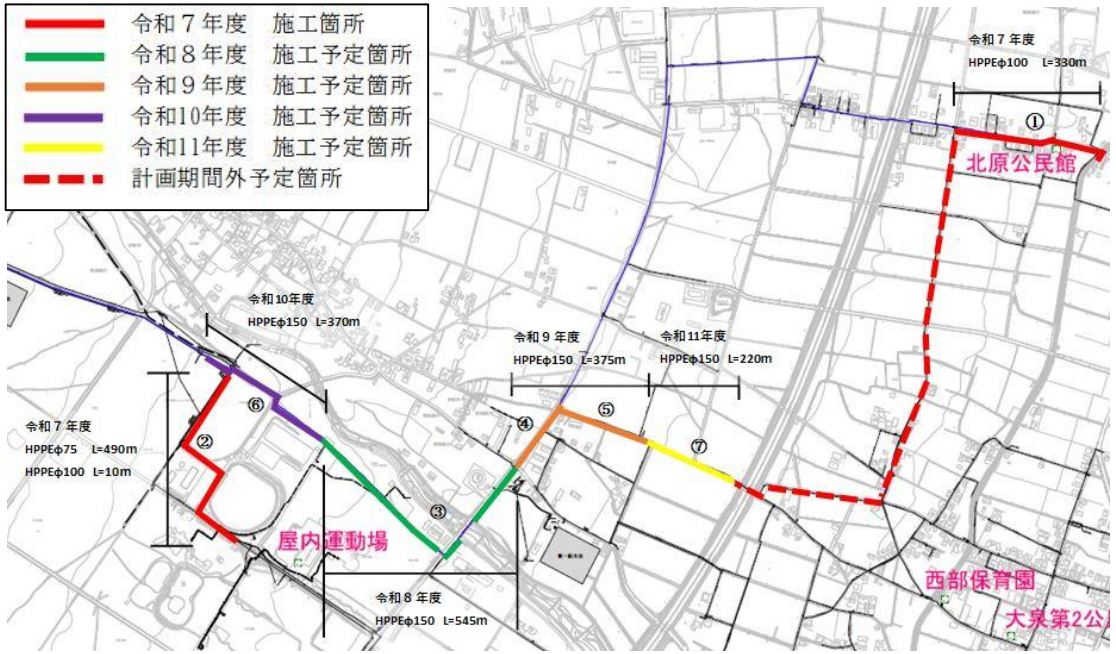


インフラ整備事業

Ｒ７事業の概要及び実施内容

【水道管路耐震化事業】
・防災拠点となる大芝高原に接続する
　水道管路の耐震化工事を実施

【公園トイレ改修・アスレチック更新事業】
・老朽化していたアスレチック遊具などを
　更新





KPI一覧

KPI	事業開始前時点	R7年度増加分	R8年度増加分	R9年度増加分	R10年度増加分	R11年度増加分	R12年度増加分
大芝高原の観光消費額（千円/年）	268,000	（計画） 0	27,500	25,000	25,000	25,000	0
		（実績）27,100					
大芝高原の利用者数（千人/年）	435	0	55	50	50	50	0
		64					
管路耐震率（%）	0.9	3.9	2.5	1.7	1.7	1	1
		3.9					
「ふるさと名物」商品化件数（件）	8	2	1	1	1	1	1
		2					

KPI達成状況に対する村の考え方

KPI	KPIに対する考え方	R7年度実績値に対する評価
大芝高原の観光消費額（千円/年）	令和７年度は計画初年度であり、各施策の効果が本格的に表れるのは２年目以降であると考えたため、計画記載の目標値は０としている。	ブラメシフェスなど、特にソフト事業が効果を発揮し、大幅な伸びとなった。
大芝高原の利用者数（千人/年）		
管路耐震率（%）	事業進捗を反映する数値として設定。	計画通りの進捗であり、順調。
「ふるさと名物」商品化件数（件）	商品化した件数を把握することで、事業の効果測定とする。	計画通り、一定の効果が出ている。（すみっちゃパール、炭わさび）

会議資料　1－2

令和7年度 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）活用事業　KPI検証（R8.9.8 むらづくり委員会）

事業名				むらづくり委員会の評価	
				事業評価	その他意見
新しい地方経済・ 生活環境創生交付金 （第2世代交付金） （補助率1/2等）	グリーン・セーフティ・ オアシス大芝高原 プロジェクト事業 ～緑豊かで安全な憩いの 場を創出する取り組み～	ソフト事業 （補助率1/2）	ユニバーサルフィールド化に 関する事業	（KPIの達成状況を踏まえて） **①事業の効果があった** **②事業の効果が不十分**	
			地域資源を生かした 新たな観光資源に関する事業		
		インフラ整備事業	公園トイレ改修・ アスレチック更新事業 （補助率1/2）	（KPIの達成状況を踏まえて） **①事業の効果があった** **②事業の効果が不十分**	
			水道管路耐震化事業 （補助率1/3）		